



# AMERICAN COLLEGE *of* CARDIOLOGY

公開禁止

2021 年 6 月 15 日火曜日、午後 2 時（米国東部標準時）

連絡先 : Dana Kauffman, [dkauffman@acc.org](mailto:dkauffman@acc.org)、202-375-6294

世界の心血管疾患による死亡の半数以上がアジアで発生  
まん延に対処するためにアジア諸国におけるCVDの疫学的特徴を明らかにするよう、  
論文で促されています

ワシントン（2021 年 6 月 15 日）—アジアにおける心血管疾患（CVD）による死者数は急速に増加しており、*JACC: Asia* の創刊号に掲載された最新の総説論文によると、2019 年には世界の CVD による全死者数の半数以上がアジアで発生しています。現地化された CVD 予防戦略を策定してこのまん延に対処するために、アジア諸国における CVD の負担と疫学的特徴を理解することが急務であることがこのデータによって実証されています。

1990 年から 2019 年にかけて、アジアにおける CVD による死者数は 560 万人から 1,080 万人に増加しました。これらの CVD による死者数のうち 39% 近くが早死、つまり 70 歳未満の人で発生しており、これは米国における CVD による早死（23%）の割合を大幅に上回っています。ほとんどの CVD による死亡は、虚血性心疾患（IHD）または脳卒中によるものでした。この研究者らによると、アジアにおける CVD まん延の拡大は、人口動態の変化、社会経済、生活環境、ライフスタイル、CVD リスク因子の保有率、CVD の予防および治療能力に起因しています。

この論文で、著者らは、複数のソースから得たアジア諸国における CVD の疫学に関するデータを綿密に評価した結果、(i) 上昇し続ける CVD による死亡率、(ii) CVD による死亡率の地理的な差、(iii) 主な CVD サブタイプの地域差、(iv) 国によって CVD まん延の移行段階が異なる、(v) 管理能力が不十分なほとんどの国におけるまん延の拡大と修正可能な CVD の主要リスク因子による大きな負担という、アジアにおける 5 つの疫学的特徴を明らかにしました。

「アジア諸国における CVD の負担と疫学的特徴に関するタイムリーな情報が、CVD のまん延に対処するために、課題を理解し、合理的な方針と戦略の策定を方向付けてアクションを起こす上で極めて重要である」と、首都医科大学附属 Beijing Anzhen Hospital、北京市心肺血管疾病研

究所の予防循環器学教授であり、*JACC: Asia* の副編集長である Dong Zhao, MD, PhD は述べています。

1990 年から 2019 にかけて、アジアにおける全死亡者数に占める CVD による死亡者数の割合は 23%から 35%に上昇し、CVD による粗死亡率は男女両方で上昇しました。CVD の粗死亡率の上昇は、アジア人集団における CVD の負担が増加していることを明示しています。

アジア諸国における 2019 年の CVD の粗死亡率には、有意な地理的な差がありました。アジアで CVD による死亡率が最も高かったのはグルジア（100,000 人あたり 810.7 人）、最も低かったのはカタール（100,000 人あたり 39.1 人）で、20 倍の差を示しています。

IHD および脳卒中がアジアにおける CVD の最も一般的な原因である一方、これら 2 つのタイプの CVD のまん延は、アジアの地域と国によって大幅に異なっています。中央アジア、西アジア、南アジアでは IHD が CVD による死亡の最大原因でしたが、東アジアおよび東南アジアでは IHD よりも脳卒中による死亡がより一般的でした。中国では、CVD による死亡の主なサブタイプが脳卒中から IHD に移行しています。著者らによると、アジアの地域や国における主な CVD のサブタイプの違いの根本的な原因是、まだ十分に解明されていません。

この論文では、異なる経済発展段階にある国は、CVD まん延の異なる移行段階を示す可能性があるため、低所得、中所得、および高所得（または先進）アジア諸国における CVD のスペクトル（全死亡数に占める関連する疾患カテゴリーの分布）の特徴も比較されました。

「さまざまなアジア諸国における CVD まん延の異なる移行段階の特徴を認識することは、これらの国々における公衆衛生、リソース配分、および研究の優先課題を特定するための指針として極めて重要である」と Zhao は述べています。

ほとんどのアジア諸国は、CVD まん延急増の第 2 期にあります。中国を始めとするこれらの国々では CVD による死亡率が比較的高く、全死亡者数に占める CVD による死亡者数の割合は、概して 40%を上回っています。高所得国または先進国における CVD まん延の特徴は、CVD による死亡者数の割合が相対的に低く、疫学的移行の第 3 期を示しています。全死亡者数に占める CVD による死亡者数の割合は、日本では 34.9%（1990 年）から 26.6%（2019 年）、韓国では 36.2%（1990 年）から 24.3%（2019 年）に減少しました。

研究者らによると、CVD のリスク因子保有率の上昇はアジアにおいて拡大する CVD まん延の主要な原因ですが、これは修正することが可能です。これらのリスク因子には、特に、食事、喫煙、脂質異常症、糖尿病、および高血圧などが含まれます。

「本総説論文で要約された情報は、アジアにおける CVD まん延の全体像を示しており、現地化された CVD 予防戦略の策定と研究のための具体的な要件を浮き彫りにしており、さまざまなアジア諸国が直面する現在のみならず今後の課題も明らかにする可能性がある」と Zhao は述べています。

本論文は、オリジナルな査読済み内容を掲載する初めての地域固有の循環器系学術誌である *JACC: Asia* の 6 月の創刊号に掲載されました。6 月号に掲載の論文には、このほか以下などが含まれます。

- 健常アジア人集団における無症候性動脈アテローム性動脈硬化症に対する年齢と性別の影響
- 心血管疾患における民族間の差異：治療と転帰に対する影響

*JACC: Asia* についての詳細は、[www.jacc.org/jacc-asia](http://www.jacc.org/jacc-asia) をご覧ください。

*JACC: Asia* 掲載論文の複製禁止については、Dana Kauffman ([dkauffman@acc.org](mailto:dkauffman@acc.org)) にお問い合わせください。

**American College of Cardiology** (米国心臓病学会) は、革新と知識によって循環器疾患の治療と転帰が最適化される世界を構想しています。循環器疾患治療チーム全体のプロフェッショナル・ホームとして、当学会と 54,000 人の会員のミッションは、循環器疾患の治療を一変し、心臓の健康を向上することです。ACC は、厳格な資格を満たす循環器分野の専門家に認証を授与し、健康新政策、基準およびガイドラインの形成を先導しています。当学会はまた、専門的な医学教育を提供し、世界的に有名な *JACC* 学会誌を通して循環器研究を発信し、治療を評価かつ改善するための米国レジストリを運営し、病院と医療機関に対する循環器専門機関としての認定を提供しています。詳細情報については、[acc.org](http://acc.org) をご覧ください。

**Journal of the American College of Cardiology** (米国心臓病学会誌) は、その科学的なインパクトのため世界の最先端をいく循環器系学会誌のトップにランクされています。JACC は、循環器疾患のあらゆる局面において最高の査読付き研究の掲載を誇る学会誌ファミリー (*JACC: Cardiovascular Interventions*、*JACC: Cardiovascular Imaging*、*JACC: Heart Failure*、*JACC: Clinical Electrophysiology*、*JACC: Basic to Translational Science*、*JACC: Case Reports*、*JACC: CardioOncology*、ならびに *JACC: Asia*) の中心的役割の雑誌です。詳細情報については、[JACC.org](http://JACC.org) をご覧ください。

###